

# 醍醐寺子院跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報  
二〇〇四  
五

醍醐寺子院跡

2004年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

財団法人  
京都市埋蔵文化財研究所

# 醍醐寺子院跡

2004年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

# 序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生きています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来1200年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成13年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび集会所新築に伴う醍醐寺子院跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます。

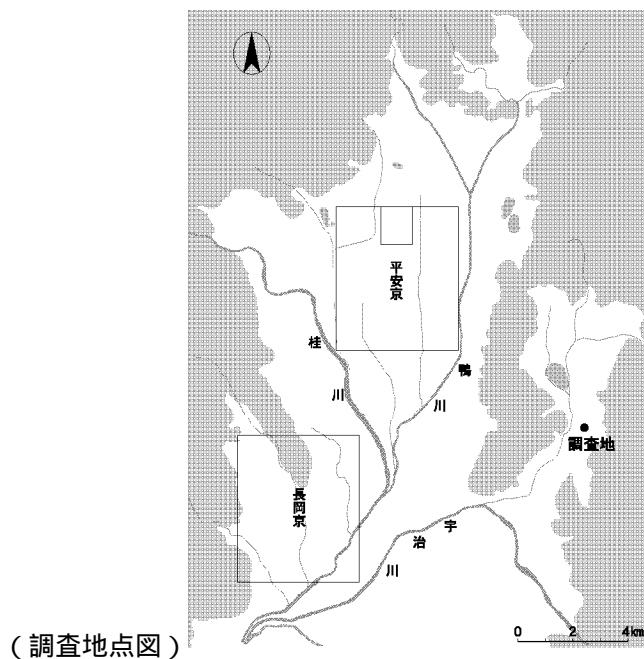
平成16年10月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

# 例 言

- 1 遺 跡 名 醍醐寺子院跡
- 2 調査所在地 京都市伏見区醍醐中山町46 - 9 他地内
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 榊本頼兼
- 4 調査期間 2004年 7月27日 ~ 2004年 8月18日
- 5 調査面積 150m<sup>2</sup>
- 6 調査担当者 吉村正親
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺 1 : 2,500）「醍醐」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P. : 東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 通し番号を付した。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子・調査担当職員
- 15 基準点測量 宮原健吾
- 16 本書作成 吉村正親
- 17 編集・調整 児玉光世・大立目 一



# 目 次

1 . 調査経過	1
2 . 遺 構	2
3 . 遺 物	5
4 . ま と め	6

# 図 版 目 次

図版 1	遺構	1	調査区全景（南東から）
		2	調査区北壁断面

# 挿 図 目 次

図 1	調査位置図（1：5,000）	1
図 2	調査前全景（南から）	2
図 3	調査風景	2
図 4	遺構平面図（1：100）	3
図 5	断面図（1：100）	4
図 6	常滑甕片拓影・実測図（1：4）	5

# 表 目 次

表 1	遺構概要表	2
表 2	遺物概要表	5

# 醍醐寺子院跡

## 1. 調査経過

醍醐集会所を新築することになり、京都市の依頼を受け、発掘調査を実施した。調査範囲は、建物の予定部分の150㎡である。遺跡名は醍醐寺子院跡で、調査地は京都市伏見区醍醐中山町46-9他地内に所在する。ここは醍醐寺西門より、真西に延長して200mほど来た中山団地の入り口にあたる。ここには、醍醐西自治会館があって老人ハウスとして使用されていた跡地である。

この付近の調査では、市営醍醐東団地の建て替え工事に伴う1999年の調査<sup>1)</sup>で、平安時代後期から鎌倉時代前期の地業や築地跡・側溝など子院の一部と思われる遺構が確認され、平安時代後期の瓦が多数出土している。そのため何らかの遺構が存在すると予想した。

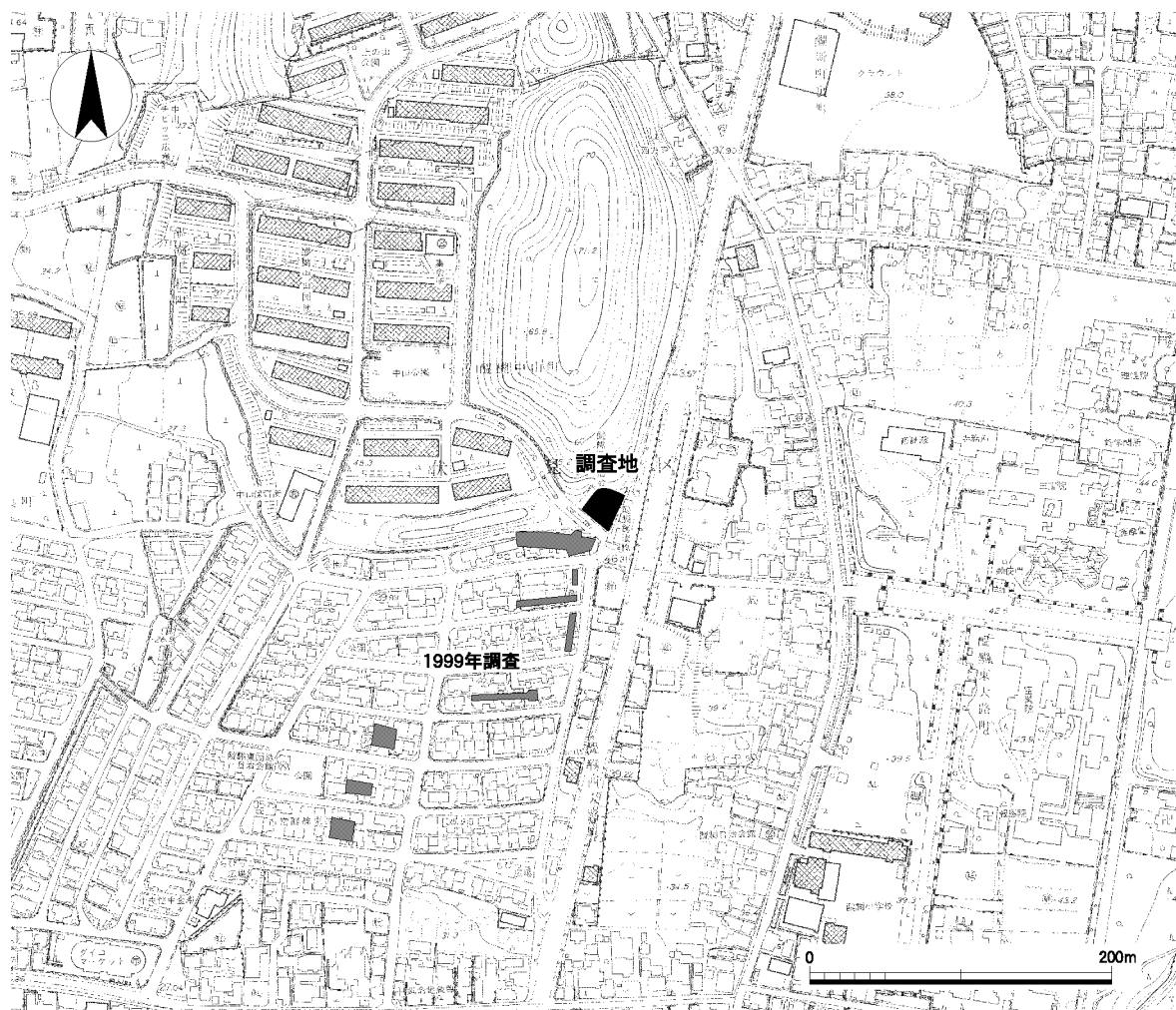


図1 調査位置図(1:5,000)



図2 調査前全景（南から）



図3 調査風景

## 2. 遺 構

機械力により70～150cmの表土と埋土を排除して、人力で遺構を精査してみると、西より東に下がる地形であることが判明、西半部は攪乱を受けていなかったが、東半には老人ハウス解体時に埋めたとされる廃材や自転車、ビニールなどが入る大きな土壌があり、遺構は残っていなかった。深い遺構の存在を確認するため、攪乱の下面を清掃したが、地山土があるだけであった。この過程で攪乱埋土中に平安時代や鎌倉時代の遺物が含まれていることが確認できた。以下、保存状態の良かった西半部にあった遺構について解説する。

土壌SK 1 検出面には漆喰の面が残り、この下30cmまで掘り込まれていた。埋土には、角張ったこぶし大の石と若干の近代遺物が入っていた。

溝SD 2 断面観察すると積土直下から掘り込まれて、地山まで切り込んでいる。溝内の土は黒ボク土<sup>2)</sup>であった。遺物が入っていなかったが、自治会館建設直前まであった溝と考える。

溝SD 3 SD 2と平行しているもので、南下がりの敷地を画する溝と思われる。遺物はおらず、溝中の土は黒ボク土である。

土壌SK 4 SD 2によって切られているので、近代に属すると思われるが性格は不明である。攪乱が大半を占めていたが、それをまぬがれているとみられる部分の旧地形は地表下70～100cmの間にあったと思われ、残されていた土壌は耕土の下が黒ボク土、褐色泥土となっていた。

表1 遺構概要表

時 代	遺 構
近 代	土壌SK 1
近・現代	溝SD 2・3、土壌SK 4

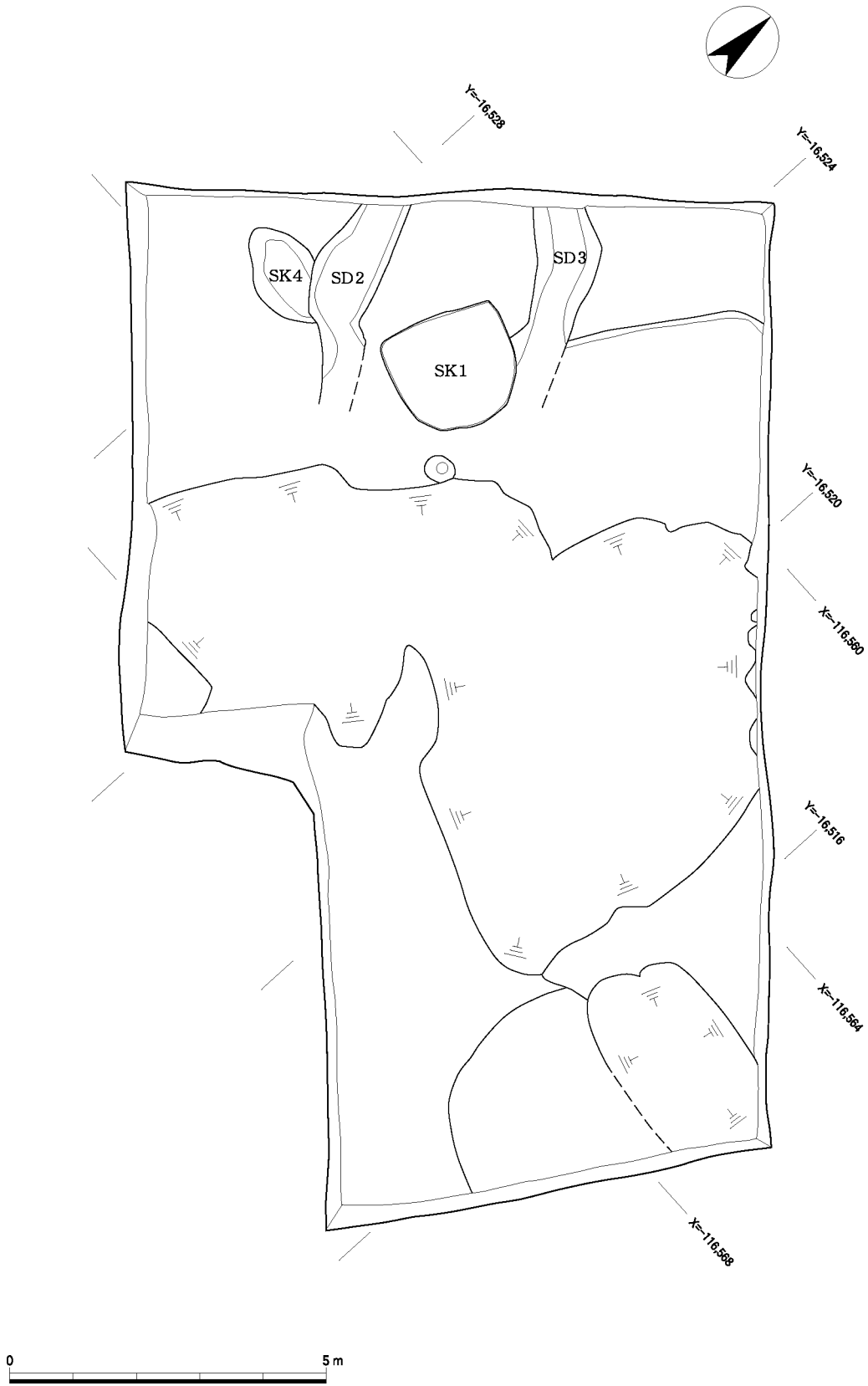


図4 遺構平面図(1:100)



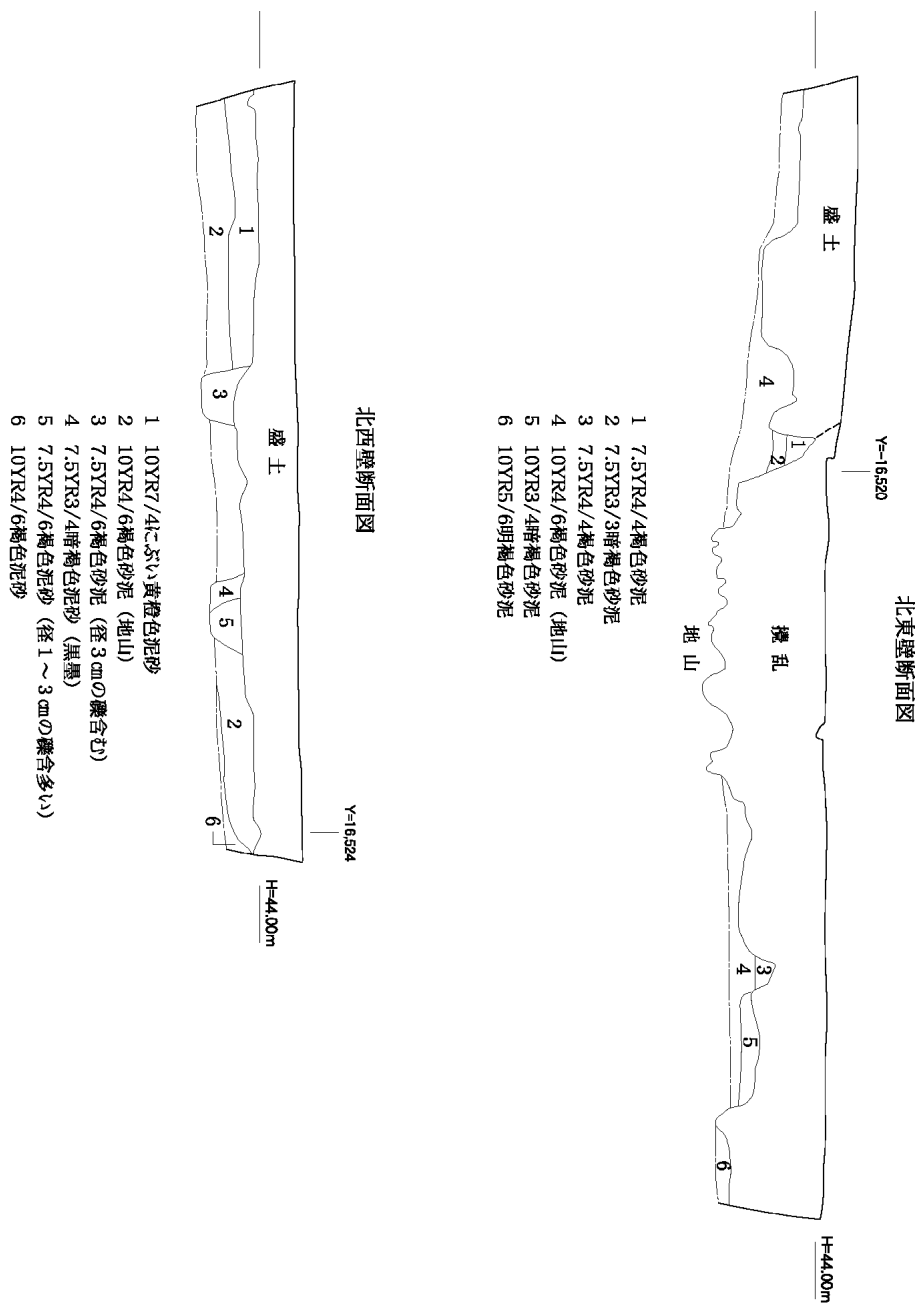


図5 断面図 ( 1 : 100 )

### 3 . 遺 物

すべての遺物は攪乱埋土の中から発見され、遺構や包含層中からの出土はなかった。しかし、遺物の構成を観察してみると、平安時代中期、鎌倉時代、江戸時代前期、明治時代以降の4つに集約できた。おそらく他から持ってきた土でなく、元々そこにあった原土壌を掘り返した後そのまま埋め返したものと判断した。そのため子院と関係するのは江戸時代前期までで、明治時代以降は住宅化に伴う遺物であると思われる。

平安時代中期 須恵質の素地に緑釉のかかった近江産緑釉陶器片。

鎌倉時代 常滑の甕片で平行叩き目が残っている(図6)。

江戸時代前期 輸入磁器、染付磁器、瀬戸菊皿、土師器、布目の付くいぶし瓦。

明治時代以降 有田焼、瀬戸焼、京焼と雑器類。

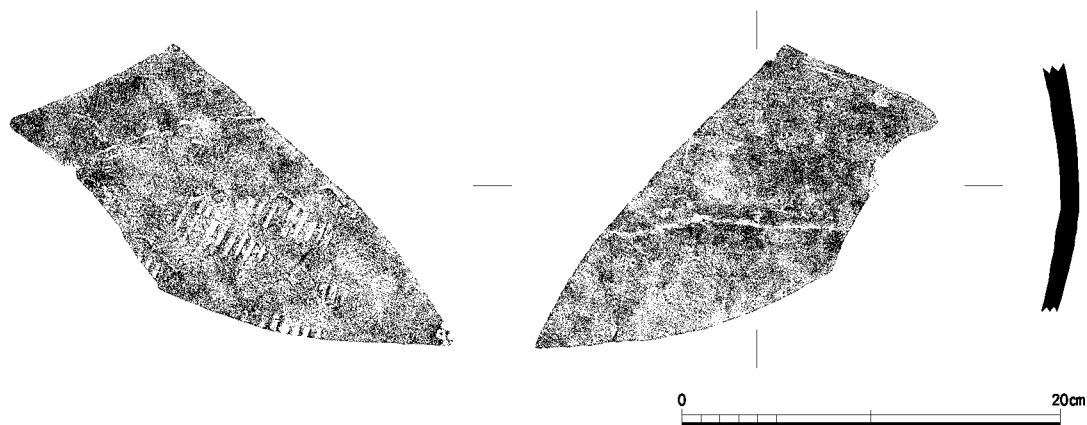


図6 常滑甕片拓影・実測図(1:4)

表2 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代中期	緑釉陶器				
鎌倉時代	陶器		陶器(常滑甕)1点		
江戸時代前期	土師器、陶器、染付磁器、輸入陶磁器、瓦				
明治時代以降	陶器、染付磁器				
合計		2箱	1点(1箱)	0箱	1箱

コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

## 4 . ま と め

今回の調査地は、1999年調査地とは20mほどしか離れていないため、当然、関連遺構が存在するとして調査区を設定した。しかし、地表下2.3mまで攪乱層がほぼ全面にわたって広がっていた。そのため、旧地形は一部分にしか残っておらず、近・現代の遺構以外は検出できなかった。それでも遺物は掘削中に一部を採集することができた。これを分類すると、平安時代中期、鎌倉時代、江戸時代前期、明治時代以降の4つの時代に分かれた。1999年の調査で石敷遺構や道筋の痕跡が見られる院の跡であると言う確証が得られている以上、今回の調査地に遺構が存在しなかったとは言えない。ましてや継続した遺物のつながりは、子院ないし門前町が続いて存在していたと想定されるに十分であろう。

### 註

- 1) 津々池惣一・布川豊治「醍醐廃寺」『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 2) 黒ボク土：森林から草原の下に形成されるケイ酸分の多い黒色の土。

# 圖 版

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	だいごじしいんあと							
書名	醍醐寺子院跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2004-5							
編著者名	吉村正親							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2004年10月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
だいごじしいんあと 醍醐寺子院跡	きょうとしふしみく 京都市伏見区 だいごなかやまちょう 醍醐中山町  46-9他地内	26100	1154	34度 56分 57秒	135度 49分 09秒	2004年7月 27日～2004 年8月18日	150㎡	集会所 新築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
醍醐寺子院跡	寺院跡	平安時代		緑釉陶器				
		鎌倉時代		陶器				
		江戸時代		土師器・陶器・染付磁器・輸入陶磁器・瓦				
		明治時代以降	土壇・溝	陶器・染付磁器				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-5

## 醍醐寺子院跡

発行日 2004年10月29日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 075-256-0961